

2008年1月1日から2016年12月31日に、当院で低置胎盤のため手術を受けた方へ

研究実施のお知らせ

研究の題名：低置胎盤における出生時体重と分娩時出血量の関係性に関する後方視的検討

研究期間：医学部附属病院長の許可日～2008年1月1日から2018年3月31日

研究責任者：山梨大学医学部 産婦人科 講座 教授 平田修司

山梨大学医学部では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的と意義について】

低置胎盤の大量出血のリスク因子として出生時体重が有用であるかどうか検討する。有用であれば、妊婦検診などで推定される児の体重をもとに手術に向けて個別化した適切な周産期管理が行える可能性があります。

【研究の方法について】

当院で周産期管理を行った低置胎盤の単胎妊婦40例を対象に、診療録をもとに患者データを抽出します。得られたデータを統計ソフトを用いて解析し、低置胎盤の大量出血のリスク因子として出生時体重が有用か検討します。

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録より取り出しますので、改めて患者さんに行っていないことはありません。

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先まで、メール又はFAXにてご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までメール又はFAXにてご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

山梨大学医学部 産婦人科 講座
診療助教 篠原 諭史

メールアドレス : sshinohara@yamanashi.ac.jp

FAX : 055-273-1113